

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1	学年	1	科	機械科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・書道に関する基本的な知識を身につける。【知識・技能】 ・書道に関わる幅広い活動を通して書を愛好する心情を育て、書写能力を高める。【思考・判断・表現】 ・興味を持って授業に臨み、実生活にも役立つような基礎的な力を伸ばす。【学習に向かう態度】
--

2、使用教科書・副教材

書道 I (東京書籍)

3、学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	書道に関する基本的な知識や技能を身につけている。	書を愛好する心情をもち、書写能力を高めようとしている。	興味をもって授業に参加し、主体的に観賞し、積極的に書写課題に取り組もとうとしている。
評価方法	・書に関する知識・理解 ・課題への取り組み	・課題への取り組み	・主体的な鑑賞姿勢 ・課題への取り組み及び自己評価

4、学習および評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

		学習の内容	時数	評価規準
一学期	4月	書へのいざない 書道の学習	14	<ul style="list-style-type: none"> ・書道を学ぶ意味を理解している。(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	5月	姿勢・執筆法を身につけよう 用具・用材を知ろう		
	6月	調和よく書いてみよう 表現の幅を広げよう		
	7月	はがきに宛名を書こう		
二学期	8月	漢字の書の学習 古典に学ぼう	15	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の態度(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	9月	楷書の古典に学ぼう 孔子廟堂碑に学ぶ		
	10月	九成宮醴泉銘に学ぶ		
	11月	行書の古典に学ぼう 蘭亭序、争坐位文稿、風信帖に学ぶ		
三学期	12月	草書に親しもう	10	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の態度(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	1月	隸書に親しもう		
	2月			
	3月			

5、学習にあたって(アドバイスなど)

<p>毎時間、書の実習がありますので、欠席・遅刻をせず、課題にはまじめに取り組んでください。定期考査は行いませんが、先人の作品を落ち着いて鑑賞する姿勢や、毎時間の課題への取り組み姿勢と提出物・作品で評価を行います。</p>

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1	学年	2	科	機械科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

書道に関わる幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、実生活にも役立つような基礎的な力を伸ばす。

2、使用教科書・副教材

書道 I (東京書籍)

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	仮名の書の学習 連綿について	考查は行わない	3
	5月	平安時代の古筆に学ぼう 平仮名・片仮名		3
	6月	行書の学習		4
	7月	行書の基本		4
二学期	8月	行書の学習 行書の古典に学ぼう	考查は行わない	3
	9月	蘭亭序に学ぶ 風信帖に学ぶ		4
	10月	漢字仮名交じりの書の学習 用具・用材の使い方を工夫しよう		5
	11月	古典をよりどころに表現しよう 漢字仮名交じりの作品の鑑賞		3
三学期	12月	漢字仮名交じりの書の学習	考查は行わない	3
	1月	くらしの中の書		4
	2月	書きたい思いをことばにしよう		2
	3月			1

計39

4、評価の方法

主体的な言語活動	日常生活や学校の諸行事の中で、感動し・問題意識を持ち、それを書作品の中の的確な言葉・文章で表現することができるか。
書への関心・意欲・態度	教科書の古典を鑑賞・臨書する際、しっかり観察し特徴をとらえようとする態度がうかがえ、また的確に表現しているか。
書表現の構想と工夫	表現の対象となる古典・創作字句の表現目的によって、構成や線質等を適切に工夫をして、文字として表現できたか。
創造的な書表現の技能	創作活動に当たっては、基本を踏まえながらも独自の創造的な表現を試みようとして表現できたか。
鑑賞の能力	古典や自分・友人の作品の素晴らしいところや改善すべき点を感じながら鑑賞することができるか。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

1年次の書道の学習をさらに発展させ、書による自己表現を目指します。一時間、一時間を大切に、意欲的に学習に取り組んでいくことや他人の作品の鑑賞をまじめにすることで、力がついてきます。毎時間、書の実習がありますので、欠席・遅刻をせず、課題にはまじめに取り組んでください。定期考查は行いませんが、取り組みや提出物・作品で評価を行います。

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1	学年	1	科	機械科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・書道に関する基本的な知識を身につける。【知識・技能】 ・書道に関わる幅広い活動を通して書を愛好する心情を育て、書写能力を高める。【思考・判断・表現】 ・興味を持って授業に臨み、実生活にも役立つような基礎的な力を伸ばす。【学習に向かう態度】
--

2、使用教科書・副教材

書道 I (東京書籍)

3、学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	書道に関する基本的な知識や技能を身につけている。	書を愛好する心情をもち、書写能力を高めようとしている。	興味をもって授業に参加し、主体的に観賞し、積極的に書写課題に取り組もうとしている。
評価方法	・書に関する知識・理解 ・課題への取り組み	・課題への取り組み	・主体的な鑑賞姿勢 ・課題への取り組み及び自己評価

4、学習および評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

		学習の内容	時数	評価規準
一学期	4月	書へのいざない 書道の学習	14	<ul style="list-style-type: none"> ・書道を学ぶ意味を理解している。(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	5月	姿勢・執筆法を身につけよう 用具・用材を知ろう		
	6月	調和よく書いてみよう 表現の幅を広げよう		
	7月	はがきに宛名を書こう		
二学期	8月	漢字の書の学習 古典に学ぼう	15	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の態度(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	9月	楷書の古典に学ぼう 孔子廟堂碑に学ぶ		
	10月	九成宮醴泉銘に学ぶ		
	11月	行書の古典に学ぼう 蘭亭序、争坐位文稿、風信帖に学ぶ		
三学期	12月	草書に親しもう	10	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の態度(a) ・書写課題への取り組み(a) (b) (c)
	1月	隸書に親しもう		
	2月			
	3月			

5、学習にあたって(アドバイスなど)

<p>毎時間、書の実習がありますので、欠席・遅刻をせず、課題にはまじめに取り組んでください。定期考査は行いませんが、先人の作品を落ち着いて鑑賞する姿勢や、毎時間の課題への取り組み姿勢と提出物・作品で評価を行います。</p>

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1	学年	2	科	機械科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----

1、科目の目標

書道に関わる幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、実生活にも役立つような基礎的な力を伸ばす。

2、使用教科書・副教材

書道 I (東京書籍)

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	仮名の書の学習 連綿について	考查は行わない	3
	5月	平安時代の古筆に学ぼう 平仮名・片仮名		3
	6月	行書の学習		4
	7月	行書の基本		4
二学期	8月	行書の学習 行書の古典に学ぼう	考查は行わない	3
	9月	蘭亭序に学ぶ 風信帖に学ぶ		4
	10月	漢字仮名交じりの書の学習 用具・用材の使い方を工夫しよう		5
	11月	古典をよりどころに表現しよう 漢字仮名交じりの作品の鑑賞		3
三学期	12月	漢字仮名交じりの書の学習	考查は行わない	3
	1月	くらしの中の書		4
	2月	書きたい思いをことばにしよう		2
	3月			1

計39

4、評価の方法

主体的な言語活動	日常生活や学校の諸行事の中で、感動し・問題意識を持ち、それを書作品の中の的確な言葉・文章で表現することができるか。
書への関心・意欲・態度	教科書の古典を鑑賞・臨書する際、しっかり観察し特徴をとらえようとする態度がうかがえ、また的確に表現しているか。
書表現の構想と工夫	表現の対象となる古典・創作字句の表現目的によって、構成や線質等を適切に工夫をして、文字として表現できたか。
創造的な書表現の技能	創作活動に当たっては、基本を踏まえながらも独自の創造的な表現を試みようとして表現できたか。
鑑賞の能力	古典や自分・友人の作品の素晴らしいところや改善すべき点を感じながら鑑賞することができるか。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

1年次の書道の学習をさらに発展させ、書による自己表現を目指します。一時間、一時間を大切に、意欲的に学習に取り組んでいくことや他人の作品の鑑賞をまじめにすることで、力がついてきます。毎時間、書の実習がありますので、欠席・遅刻をせず、課題にはまじめに取り組んでください。定期考查は行いませんが、取り組みや提出物・作品で評価を行います。